

2025年度(令和7年度)事業計画書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

I. 基本方針

2024年に開催されたパリオリンピックにおいて、新潟市出身の古俣聖選手がフェンシング競技男子エペ団体で銀メダルと獲得されました。角界では、県立海洋高校相撲部の一員として平成28年度米山稔賞表彰された大の里関（中村泰輝さん）が大関昇進されました。その活躍は、スポーツを愛する多くの人々の希望と活力になり、ジュニアの普及と育成の原動力となるものです。

当財団は、今後、中学部活動の体制変革が進められる中で、将来を見据えたジュニア選手の育成と各競技全体の普及につながる事業等への助成を積極的に進めるとともに、今後もより健全な運営に努め新潟県スポーツ振興の礎になるよう注力して参ります。

II. 2025年度の事業計画

2023年度中から、新潟県内すべてのスポーツ競技へ事業対象を広げ、徐々に申請種目も増えてきています。引続き、スポーツを通じて健康で明るい地域活性化や、より高いレベルに挑戦する選手育成に取り組む団体への、助成・表彰事業を行う収支計画としました。そして、まだなお復興半ばの能登半島地域をはじめとする、北信越地域が元気を取り戻す事業への活用も進めてまいります。

当財団では、収支相償の法令に従い下記金額を事業計画とし、選考はより効果的に活用されるよう最善の注意を払ってまいります。

事業目的別の事業計画は次の通りです。収支予算は別紙をご参照ください。

1. 助成に関する事業

7,459万円（前年予算対比167.2%）を計上いたします。

2. 表彰に関する事業

表彰規程に基づき個人または団体を選定し、表彰する予定です。

III. 助成事業及び表彰事業の募集

助成金及び表彰の募集にあたりましては、前年に引き続きホームページで情報を公開し一層わかりやすい内容に努めるとともに、新潟県内インドアスポーツ競技団体を中心に全てのスポーツ競技団体へ応募用紙を送付いたします。

今後もより健全な運営に努め、新潟県スポーツ振興の礎になるように注力して参ります。